キズナエピソード

雪舟エリザ　1話

//ヴィジュアルノベル形式開始

悪魔どもとの激しい戦いに勝利した俺たち。

そんな時、俺はエリザに話しかけられた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［エリザ］

「見てたかしら、オムニス。

このワタクシチャンサマにかかれば、

悪魔なんて、ちょちょいのほいですわ！」

［黒猫］

「あんまり余裕かますなよ。

調子に乗っていると、足元すくわれるぞ」

［エリザ］

「あなた、目の付け所が違うわね。

ワタクシがいつ調子に乗ったというのかしら？」

［黒猫］

「……！」

［エリザ］

「……ちょっと、何を急に黙ってるのよ。

何か言いなさいよ」

［黒猫］

「……はいはい。

ほら、さっさと行くぞ」

//ADV形式終了

//暗転

//場面転換：白い部屋

//ヴィジュアルノベル形式開始

白い部屋に戻って来た俺は、感慨深くため息を吐いた。

「あなた、目の付け所が違うわね」

この言葉に強い既視感を覚える。

まるで学生時代の青春の匂いが思い起こされるような、

そんな感覚……。

そんな時――

//ページ切り替え

突如として、俺は耐えがたい睡魔に襲われる。

視界がぼんやりとしたモヤに包まれる中で、

俺は知りもしない記憶を垣間見た。

それは、休日の秋葉原……。

その時の俺は、一人で電気街を歩いていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//秋葉原

［とびお］

目当ての物もあらかた買い終わり、

ゲーセンでテキトーに遊んでから

俺はぶらぶらと駅に向かう。

［とびお］

そんなときだった。

［エリザ］

「あなた、ふざけてるのかしら？

それとも、そもそも勘違いしているのかしら？」

［店員］

「いえ、ですから先程から申し上げております通り――」

［エリザ］

「納得がいかないわ。

……あなた、もしかしてワタクシのことが好きなの？

だから意地悪するの？

［エリザ］

「でもゴメンなさい、趣味じゃないの」

［とびお］

電気店で、店員と揉めている女の子がいる。

……それが、エリザとの初めての出会いだった。

［とびお］

「どうかした？」

［とびお］

海外の人が日本の常識に戸惑い、困っているのだろう。

そんなことを考えて、俺は話を聞いてみることにする。

すると、エリザは嬉しそうに笑ってみせたのだった。

［エリザ］

「あなた、目のつけどころが違うわね！」

［とびお］

「……目のつけどころ？」

［エリザ］

「あら、日本ではこういう時は

そういうんじゃなかったかしら？」

［エリザ］

「とにかく、聞きなさい。

この店員が、ワタクシにだけ物を売ってくれないのよ！

ひどい横暴ですわ！」

［とびお］

「え、それはいくらなんでもひどくない？」

=========================スチルカットシーンA開始=========================

［とびお］

勝ち誇った顔のエリザが俺の手を引っ張る。

電気店の店員は憔悴しきった様子で、

助けを求める視線を俺に投げかけてきていた。

［店員］

「そんなことは言っていません……。

この店ではカードは使えないと。

それだけのことなんです……」

［とびお］

「カード？」

［店員］

「はい。クレジットカード」

［エリザ］

「嘘よ！

ワタクシの前の客がカードを使っていたのを見たわ！

それも、一人じゃなかったわよ！」

［店員］

「それは、当店のポイントカードです……」

［エリザ］

「よくわからないけど、カードはカードでしょ！

仲間はずれは良くないわ！

第三者のアナタもそう思うでしょう？」

=========================スチルカットシーンA終了=========================

［とびお］

「……これは店の人が正しい」

［とびお］

俺は率直なジャッジを述べる。

店員は心底ホッとした表情を浮かべ、

エリザは口を開けたまま固まった。

［とびお］

「この店は、現金のみの取り扱いだってさ」

［エリザ］

「現金……？　なんで？」

［とびお］

「そういうお店だから」

［エリザ］

「違うわ！

なんで現金なんて重いものを持ち歩くのかしら？

普段から体を鍛えているわけ？」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

エリザの質問攻めの対象は俺に代わったらしく、

それから駅で別れるまでしつこく付きまとわれることになった。

厄介なヤツに関わってしまった……。

その時の俺は、心からそう思っていた。

けれど、その奥底ではどこか新鮮な気持ちがあって、

不思議な心地よさも感じていたのだった。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//1話END